

# 未来を築く新エネルギー

エネルギー資源の大半を海外に依存するわが国にとって、アジア諸国を中心とした旺盛なエネルギー需要は、わが国の中長期エネルギー政策に大きな影響を与える。一方、本年2月に京都議定書が発効し、脱温暖化社会づくりが待ったなしとなる中、エネルギー政策における環境への適合性が一層重要な課題となっている。

政府では、この大変困難な約束を実現するために、本年4月に「京都議定書目標達成計画」を閣議決定し、その目標達成のための具体的な施策の一つとして、資源制約が少なく、環境特性の高いクリーンなエネルギーである新エネルギー導入の促進を打ち出している。また、本年7月のG8サミットでの地球温暖化対策「グレンイーグルズ行動計画」においても「再生可能エネルギーの開発・商業化」が宣言された。

今月号の特集は、持続可能な脱温暖化社会の実現に向けた新エネルギーの可能性について考察してみることにした。わが国の政策や産業ビジョン、諸外国での取り組み事例や普及状況、有識者の意見、また具体的な事例として水素エネルギー（燃料電池）、風力発電、バイオマス・エネルギー、太陽光発電などに焦点を当て、商社をはじめとする企業でのビジネス展開と普及課題を紹介いただいた（新エネルギーとは何かについてはP.32「参考資料：新エネルギーの位置付け」ご参照）。

## 【特集目次】

### （寄稿）

我が国のエネルギー政策を巡る現状と長期展望

村山 智	経済産業省 資源エネルギー庁	14
	長官官房総合政策課 エネルギー政策企画室長補佐	

新エネルギー産業の動向と産業ビジョン

中野 剛志	経済産業省 資源エネルギー庁	17
	省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー対策課課長補佐	

自然エネルギー市場の将来展望—脱化石燃料の主力となり得るか

飯田 哲也	環境エネルギー政策研究所所長	20
-------	----------------	----

### <新エネルギービジネスの現状、市場拡大への課題と展望>

水素エネルギービジネスに向けての取り組み

建元 章	岩谷産業 水素エネルギー部長	23
------	----------------	----

豊田通商における風力発電への取り組みと今後の展望

五十嵐 修	豊田通商 東京機械部主担当員	25
-------	----------------	----

バイオマスエネルギーの利活用

園山 芳	サミット明星パワー社長	28
------	-------------	----

太陽光発電の現状と展望

松井 美憲	シャープ ソーラーシステム事業部企画部課長	30
-------	-----------------------	----

### （寄稿）

持続可能なエネルギー社会の実現—海外における自然エネルギーの普及

大林 ミカ	「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク副代表	33
-------	-------------------------	----

### （参考資料）

新エネルギーの位置付け	32
-------------	----